

愛着障害とは何か？

エバーグリーン・コンサルタント

<http://attachmenttherapy.com/ad.html>

Copyright 1998 Evergreen Consultants in Human Behavior, LLC.

(翻訳記事提供および文責：Techbow, Ltd. 著作権者は、再々掲載および無断翻訳、無断配布を禁止しております。)

今、ますます多くの子供達が、自分達を愛し、保護し、面倒をみてくれる養育者への愛着を心に確立できず、発達させられずにいる。このような子供達は、心の健全な発達にとって最も重要な土台を作る事なしに、放置されている。こんな子供達が、圧倒されるほど多くの問題を抱え、アメリカの児童福祉体制に溢れんばかりに殺到している。社会的問題、精神的問題、発達上の問題、肉体的・道徳的問題、.....子供達はやがて大人になり、自分の子供達に同じ事を繰り返す。ある調査結果では、アメリカのハイリスクな家庭（虐待、無視、貧困、実質的虐待、家庭内暴力、両親自身に被虐待・無視歴がある、等）の80%近くに、子供達の深刻な愛着障害が生じている。アメリカでは、毎年100万件の深刻な虐待や無視事件が起こっていて、統計では、児童福祉システムが例年80万人重度の愛着障害を持つ児童に対応している。この数値には、外国から養子として貰われてきた何千人もの愛着障害を持つ児童は含まれていない。

崩壊した、不安定な愛着は、感情障害の問題や社会的障害の問題につながるばかりでなく、発達途上の子供の脳における生化学的な影響さえ及ぼす。愛撫や安心感を与えられずに育った乳幼児は、異常に高レベルのストレス・ホルモンを分泌し、それが子供達の脳と肉体の成長と発達を損なう。感情交流における無視が子供達にもたらす神経生物学的影響は、子供達の振舞いを騒がしく無規律にさせ、あるいは憂鬱、無感動、学習遅滞を起し、また慢性病に罹りやすい傾向がある。しっかりと愛着を身に付けた子供達と比べ、愛着障害の子供達は、より攻撃的で、破壊的で、反社会的となる傾向がある。

例えば、幼児期に愛着を形成できなかった十代の少年達は、通常の3倍もの確立で暴力犯罪を犯す傾向にある。決定的に重要な最初の三年間で愛着が崩壊していると、これまで言われてきたいわゆる「愛情欠乏型精神病質 (affection less psychopathy)」につながる可能性があり、人と意義のある感情的結びつきを形成するのが難しく、慢性的な怒りや、衝動をコントロールすることが困難で、良心の呵責に欠ける傾向にある。

愛着障害は世代を超えて伝わる。養護者に対するしっかりとした愛着に欠けた子供達は、通常、成長してからも、自らの子供に決定的に重要な心の土台を築いてやれない親となりがちである。自らの子供を保護し、養育し、愛する本能に従う代わりに、彼らは虐待し、無視し、放置する。現状は、既に制御不能である。以下の事実に目を向けて戴きたい。

- ・虐待によって重傷を負った子供の数：約4倍。1986年(140,000人)から1993年(600,000人)。
- ・虐待事件数：300万件。(1995年の児童保護局による調査)
- ・深刻な虐待や無視事件で、継続する危険があると確認された事件：100万件以上。同調査は、実際の事件数はこの10倍から16倍に及ぶであろう旨を述べている。
- ・児童保護局でも、急増する虐待事件(1993年には、深刻な虐待を受けた児童は28%であったものが、1996年には45%に達する)への対処に苦慮している。

妥協的な、あるいは崩壊した愛着しか持ち合わせずに人生をスタートした子供達は、成長期に下記のような深刻な問題を抱える危険がある。

- ・自己評価が低い
- ・(他者への心理的)要求度が高い、粘着気質、虚構的独立心
- ・ストレスや逆境に直面した時の、補償作用の喪失(パニック症状、他)
- ・自制心に欠ける
- ・友情を発展させ維持することができない
- ・両親、養護者、その他の支配的人物から、疎遠になり、対立的になる
- ・反社会的な態度や振舞い
- ・フラストレーションによる攻撃性と暴力性
- ・(他者に対して)心からの信頼、親交、好意を抱くのが困難
- ・自分自身、家庭、社会に対して、否定的、絶望的、受身的な見方をする
- ・共感、同情、良心の呵責の欠如
- ・学校での振舞い、および教育的問題
- ・成人してから、自らの子供に虐待のサイクルを繰り返し、愛着障害を起こす。

幼児の愛着障害の徴候

下記は、妥協的な、あるいは崩壊した愛着しか形成されていない歩き始めの乳幼児ないし幼児に見られる行動パターンである。

- 1.愛情表現
 - ・暖かい、親愛性に満ちた交流の欠如
 - ・見知らぬ大人に対する無差別の親愛表現
- 2.快適さの追求
 - ・怯えた時、傷ついた時、病気の時、快適さを求める事をしない
 - ・奇妙な、相反する方法で、快適さを求める
- 3.援助への依存
 - ・依存心過剰
 - ・助けが必要な時、養護者を探さず、要求もしない
- 4.協力性
 - ・養護者の要求に従わない
 - ・要求過剰
 - ・強制的応諾（しぶしぶ言う事を聞く）
- 5.探求的行動
 - ・見知らぬ環境に置かれた時に、養護者がいるかどうか確認しない
 - ・養護者と離れるのが嫌さに、探求心が乏しい
- 6.自制的振舞い
 - ・過剰に傲慢にふるまう。養護者に対する懲罰的支配
 - ・養護者に対して気を使い過ぎ、また不適切な世話をやく行動をとる
- 7.反応の再結合
 - ・人と別れた後に、その対話を再現する事ができない
 - ・烈しい怒りや愛情の欠如から目を逸らせる、あるいは避ける

～参考文献（愛着障害の子供を持つ養親のHP）～

<http://www.attachment-ga.com/attach/>

RAD(反応性愛着障害)

反応性愛着障害(Reactive Attachment Disorder)とは、人間関係の形成障害です。この障害を持つ子供達は、人を愛し、愛される事ができずに苦しんでいます。このような子供達は、普通の、健全な家庭内での人間関係を、家族全員が苦しむ程に歪めてしまいます。愛着障害を持つ子供の扱いは、微妙かつ独特であり、家族全員がこれを行わねばなりません。部外者には、愛着障害を持つ子供の振舞いに対する両親の痛みと怒りが理解できないと思います。なぜなら、このような子供達は、家族以外には表面的な愛嬌を振りまくからです。人との結びつきの欠如が、他人や動物に対する信じがたいほど冷酷な振舞いという形になって現れません。

どうすれば両親は、自分達自身がおかしくなるような事にならずに、子供達が愛しまた愛されるようになるよう、手助けができるのでしょうか？

どうすれば精神衛生学の専門家は、両親がこのような善悪の観念のない子供達に手を差し伸べるのを助けられるのでしょうか？

私達が自分の里子達の中に発見した愛着障害は、私達を悲嘆の淵に落とし入れました。

私達はこの問題に関する多くの情報を入手し、我々の住むジョージア州の専門家達に相談した結果、この荒廃した障害の問題を抱えた私達は、最初に気がついた時よりももっと孤立しているのだと知りました。

適切な治療を捜し求めて、私達は子供達の代わって、ジョージア州政府と共に積極的な提唱を始め、その結果、子供達が回復に向けた積極的なコースを辿る事が可能になりました。

このウェブサイトは、あなたがここに記されているような症状を示す子供の親なら、あるいはこの障害についての勉強と、子供の愛着障害が解消されるのを助ける治療法の知識が必要な精神衛生学の専門家なら、ここを読めば同じゴールを目指すにあたって少しは時間の節約になる事を意図しています。

また私達は、このサイトを通してあなたがこの障害を正しく理解し、どこに助けを求めれば良いかを知るなど、十分な知識を得ていただきたいと願っています。

この理解の「ともしび」は、長い歳月をあてて献身的に問題と取り組み、愛する者との千切れた結びつきに苦しむ子供達を助ける試みの中で幾度も涙を流し、また子供の魂と格闘する親達を個人的に助けてきた多くの治療士兼任の里親達、精神科医、心理学者、ソーシャルワーカー、セラピストによって、灯（と）もさ

れました。

もし、あなたが問題行動をする子供達の親、里親、養親、心理学者、ソーシャルワーカー、後見人、弁護士、教師、その他そのような子供達のために働いているのなら、どうぞ遠慮なくこのサイトの他の情報や、国内リンク先にもじっくり目を通してください。反応性愛着障害に来るしむ子供達と、彼らを愛する家族のための助けが記載されています。

もし、あなたが精神科医、心理学者、ソーシャルワーカー、カウンセラー、セラピストであって、ジョージア州内で未解消の反応性愛着障害を患う子供に対して必要な治療を施す研修に関心があれば、やはりこのサイトやリンク先のRAD関係のサイトにじっくり目を通して下さい。「The Attachment Center at Evergreen」www.attachmentcenter.org,または「The Attachment & Bonding Center of Ohio」電話番号440-230-1960などは、すぐれた連絡先です。その他の情報源としては、ATTACH(Association for Treatment & Training in the attachment to children)www.attach.org. Call ATTACH at 703-914-3928. Archie W. Riley and M. Lisa Riley, LCSW. などがあります。

RAD(反応性愛着障害)の症状

- 1.表面的な愛嬌。自分の可愛さを利用する。
- 2.人や動物に対して冷酷
- 3.火に魅せられる
- 4.死、出血、血糊などに心を奪われる
- 5.些細な、取るに足らない状況や環境においても、(対象を)支配したがる激しい欲求
- 6.大人を操作して三角関係に置く
- 7.嘘をつく時以外、目を合わせるのを避ける
- 8.見知らぬ人への過度の親愛表現。自分の条件に合った時だけ相手の親愛を受け入れる。
- 9.わがまま(要求過剰)
- 10.冷酷な行為あるいは嘘に対して自責の念がない(無意識)
- 11.自分や他人が怪我をする危険に無頓着に、スリルを求める
- 12.自分や他人の財産を壊す
- 13.盗癖
- 14.些細な怪我にひどくびくびくするが、ひどい怪我に無頓着
- 15.友達ができない。できてもすぐ離れていく。
- 16.こそこそと振舞う事が楽しい
- 17.ばかげた嘘をつく(真実を話す方がよほど簡単なような嘘をつく)
- 18.食べ物をこっそり貯め込んだり、盗み食いをする。異様な食習慣(異食症)。
- 19.ひっきりなしにしゃべる。ナンセンスな質問を繰り返す。
- 20.実際の能力よりもテストの成績が悪い
- 21.話し言葉や言語の問題。怒った時以外は、口の中でもぐもぐと呟く。
- 22.全般的な発達遅れ
- 23.肉体的、性的に虐待を受けた。また生後1年以内に無視された。
- 24.生後1年以内の養護者が複数であった
- 25.要求が多い、しつこい
- 26.両親がいつも怒っているように見える
- 27.原因と結果を考えない
- 28.衝動的

RAD(反応性愛着障害)の考えられる原因

- 1.生後数年の、深刻な虐待と無視
- 2.生後1年以内に、複数の養護者
- 3.治療していない複数の耳の感染症など、深刻かつ回復していない痛み
- 4.産まれた時の保育器などを含む、生後1年以内の入院治療
- 5.生後1年以内に、母親あるいは第一の養護者が入院した
- 6.複数の里親を移動した。養子縁組の不調。あるいは、縁組に成功したとしても、それ以前に不調を経験している。
- 7.母親の妊娠に対するアンビバレンス(両面価値、葛藤の感情)
- 8.生後1年内の、お粗末な育児技術

RADの症状は、他の障害の症状と重なったり、また並存したりするので、完全な診断のためには、両親は

適切な訓練を積んだセラピストに相談することが大切です。訓練を積んだ専門家がRADを診断するのに役立つツールとして、ランドルフ愛着障害質問表 (Randolph Attachment Disorder Questionnaire) があります。この質問表とその記入方法を説明したマニュアルを必要とするセラピストは、以下の出版元に連絡してください。(The Attachment Center Press, P.O. Box 2764, Evergreen, Co, 80437-2764)

この質問表は、適切な訓練を積んだ愛着障害のセラピストだけが、診断過程において他のツールと併用して使うべきものです。適切な訓練を積んだ愛着障害のセラピストについては、このサイトのリンクをご覧ください。

最新の調査による養子・里子の愛着障害

「幼児期のトラウマが心の絆を阻害する」

著者：トーリ・デアンジェリAPA(アメリカ心理学協会) モニタースタッフ

<http://www.apa.org/monitor/jun97/trauma.html>

(Copyright 1997 by the American Psychological Association. APA (アメリカ心理学協会) 翻訳・再掲載許可記事。翻訳の質についてはAPAは責任を負わない。またAPAの文書による合意なくして、本記事の再再掲載ならびに配布を行ってはならない。)

愛着問題の研究者が特に興味を持つ質問をすると、養子となった子供達は答えに窮する。なぜなら、彼らの背景は時に、虐待や無視、またある時は完全な養育放棄という特徴があるからだ。しかしそれは同時に、行動科学者が、幼児期の敵対的な条件下でいかに愛着障害が形成されるか、また後のケアによってこのような子供達が人間関係を築く能力にどのような影響が生じるか、等を検証する機会を与える事にもなる。

最近のある研究で、サンフランシスコ・ザビエル大学の心理学者、キム・チショルム博士は、産まれて数ヶ月で孤児院に收容されたルーマニア人の子供達を調べた。その子供達の多くは、その実母、あるいは継続的な養護者と全く接触することなく、病院から直接施設に送られている。

養子となった年齢がこれらの子供達にどのように影響するかを考察するため、チショルム博士は、研究対象の子供達を3つのグループに分けて比較観察した。

- ・養子になるまで、最低8ヶ月は孤児院に收容されていたルーマニア人児童のグループ(46人)
- ・月齢4ヶ月になる以前に養子となったルーマニア人孤児のグループ(30人)
- ・年齢と性別を被験者のルーマニア人児童に合わせた、カナダ生まれの、養子ではない子供達(46人)。

チショルム博士の研究は、2部構成となっている。一つ目の部分は、養親達への集中的なインタビューで、子供達が3才の時に一度、さらに4才になった時にもう一度。いま一つの部分は、子供達が4才の時の親子の相互影響に関する実験である。

相互影響に関する考察

実験のある段階で、チショルム博士は、子供達が下記のような状況の時、どのように振舞うかビデオに録画した。

- ・両親がいる時
- ・両親が不在で、見知らぬ人間が一人いる時
- ・見知らぬ人間が帰った後、両親が戻った時

ビデオは、遅い年齢になって養子となった子供達が、他の二つのグループよりも、より不安定な愛着パターンを示す傾向を明らかにして見せた。このグループは特に、他の二つのグループが示したより典型的な不安の愛着スタイルと違って、異常な、烈しい、非定型的な形態の愛着を示した。

この非定型的なスタイルの愛着表現を示した比率は、非養子の子供達が17%、早期に養子となったルーマニア人児童が11%、遅い年齢で養子となった子供達は52%であった。

二つの定型的な不安愛着表現とは、(1) 防御的ないし不安定、(2) 高圧的ないしアンビバレント(合矛

盾する感情、両面価値)である。不安定な幼児は擁護者を避ける傾向があり、感情を表さず、養護者がその場を離れるとよりリラックスするよう見える。高圧的な幼児は、養護者がその場を離れると悲しそうになり、彼らが戻ると、自分を放っておいてどこへ行ってた、という怒りを表す。また多くのルーマニア人児童が示した非定型的スタイルの愛着表現は、上記の二つの基本的主題の変形である。

その中には、「子供が親を世話しているように見える」非定型的な不安定タイプ、「子供が防御的態度と高圧的態度を交互に繰り返す」防御-高圧タイプ、「取り止めのない、なんでもあり式行動」の包括的な不安定タイプがある、とチショルム博士は言う。

博士はさらに続けて、「養親へのアンケートでは、遅くに養子となった子供達はまた他の二つのグループと比べて、最近、愛着障害判定基準として使われている無差別的な友愛表現において高い指標を示した。このような子供達は、養護者の期待に反して、何の警戒心もなく見知らぬ大人に話しかけ、抱きつき、キスさえしようとする。」

この行動は、人間関係の中でアイデンティティを形成するための基本的な養育者を持ち得なかった結果であると断定されている。この空白を埋めるため、子供達は、優しいような人物なら誰にでもくっついていく事になる。

子供が養子となった年齢についての考察に加えて、チショルム博士はまた、子供の愛着パターンに影響を与えたと思われる別の二つの要素を考察した。養親の特性が一つ、いま一つは子供が例えばどれくらいの期間孤児院にいたか、というような施設での生活状況、あるいは養子となった時の身体的条件である。

博士の調査によれば、愛着が不安定なルーマニア児童の養母の多くは、愛着の安定した子供達の場合より、低レベルの教育しか受けておらず、社会経済的に低い地位にあった。同調査の対象となった養親の中でも、このような親は他の親より多くのストレスを訴えた。

チショルム博士にとって、この調査結果は一種の出口のない、無限の環を表している。そこでは、愛着不安定の子供は、どうやって助けを求めれば良いかを知らず、また既に危険な状態である親は子供の行動によってよけいストレスを増大させていく。この親のストレスに対して子供はまともに反応せず、かくしてこの繰り返しが延々続く。

さらにチショルム博士が調査した所によると、施設の変数(施設毎の差違)自体は、子供が愛着不安定となるかどうかを占う要素ではない事が分かった。「それよりも、(親子の)相互影響の効果が作用して、つまり、初期の愛着不安定と後期の子育てによる変数が結合し、現在の愛着障害の問題を悪化させている」と博士は語る。

問題を難しくしているのは、はたして誰なのか?

デラウェア大学のメアリー・ドジエール博士とK.チェース・ストーバル博士が、チショルム博士やその他の愛着障害研修者の調査結果を意義づける可能性のある研究を行っている。

研究の詳細は、10組の養母とその幼児の日常生活における相互作用の分析である。調査の結果、月齢8ヶ月以上の年齢になって養子となった幼児達は、例え養母が安定した愛着スタイルを取っていても、最も多く愛着障害の問題を起こした事が分かった。これまでの調査では、愛着の崩壊した乳児は6ヶ月から8ヶ月の時に問題を起こすとか、1歳の時に始まるとか推定されていた。

同研究チームは、養母達に育児日記をつけてもらうようにし、悲しい出来事に対する幼児達の反応と、その悲しみに養母達がどう対応したかを記録させた。また同チームは養母達の育児スタイルの格付けを、養母自身の未解決な喪失感やトラウマに応じて「自主的・安定的」、「冷淡」、「不安定・危ない」の三つに分けた。

この6ヶ月から1歳6ヶ月の乳幼児達は、養子になった年齢が高ければ高いほど、より烈しい愛着障害の問題を示した。母親が「自主的・安定的」と判定された場合でも、である。

ドジエール博士とストーバル博士はさらに、いかなる状況であれ、例え子供達が自分を避けようと、かんしゃくを起こそうと、やさしく対応してきた母親の子供は、最も安定した愛着を示す事を発見した。「そんな母親の振舞いは、子供達にとって一種の治療として作用するのです」と、ドジエール博士は語る。

児童問題研究者である、バージニア大学のロバート・ピアンティ博士は、このドジエール博士の研究と実験を、長らく求められてきたものとして、賞賛している。

養母と幼児の日常生活における相互作用、あるいは初期の愛着障害と後期の養護スタイルが交差する点に

ついでの評価や研究は、まだ端緒についたばかりである。

ドジョール博士は語る。「調査が明らかにした事のひとは、(養親は)安定した人物である、というだけでは不十分なのです」

養子縁組を決意するまでに知っておくべき事

Copyright 1997 The Attachment Center at Evergreen(翻訳記事提供および文責: Techbow, Ltd. 著作権者は、再々掲載および無断翻訳、無断配布を禁止しております。)

はじめに

人はとかく、人生の重要な出来事や祝事を理想化する。結婚、子供の誕生、長期休暇などについて、幸せいっぱいという思い入れやイメージを抱き、起こり得る困難、挫折、失望といったようなものは、えてして見過ごしがちである。養子縁組も同様で、うまくいく縁組もたくさんあるが、そうでない場合もまた多い。

人は、多くの理由で養子縁組を考える。理想的な養親は、居場所のない子供に育成の場を与えるという欲求と、自身の子育ての欲求との間に合理的なバランスを保つ。しかしながら、子供に育成の場を与えるという欲求の範囲から逸脱してしまうような問題が数多くある。それに対して、養親の心に浮かぶ最初の疑問は、恐らく次のようなものであろう。

「なぜ、そういう欲求だけでは不十分なのか？」

特殊な欲求を抱える子供達

アメリカには落ちつき先のない子供が65万人存在する。そのうちの約20% (13万人) の児童が養子縁組可能である。その養子可能な子供達の多くが、特殊な心理的欲求を抱いている。しかし、養親達は往々にしてこの養子達が家に持ち込んでくる実際の、あるいは潜在的な問題に気づかない。なぜなら、まず養親自身があまり聞こうとしないからであり、またケースワーカー達も往々にして関連情報を知らないでいる事が多いため、養親はふと気づくと自分達が対応する準備もできていない悲劇的な状況に置かれていることを知る。特殊な欲求や高いリスクを抱えた子供を育てる準備が出来ていないのに引き取ると、無駄な労力や経費を費やし、家族に甚だしいストレスをかける事になる。うまく行っている養子縁組も沢山ある反面、推定によれば、情報不足、準備不足が理由で、アメリカの養子縁組の半分が不調に終わっている。養子に出る子供達の多くが、その生家、里親のケア、複数の里親宅のたらい回し、あるいは肉体的、感情的、性的虐待によるトラウマを抱えている。養親は、しばしばこういう言葉を聞かされる。『この子が必要としているのは愛です。愛さえあれば、全てうまくいきます』

これは間違いである。

国の機関を通してであれ、民間エージェンシーを通してであれ、養親は注意深く、かつ、「夢に描いてきた愛くるしい子供」の幻想を捨てて、現実的な見方をする必要はある。

多くのローカルTV局やローカル紙や会報などで、毎回2、3人の子供達を取り上げて、養子縁組を促進する番組や記事が流されている。例えば二人の5歳児にスポットライトが当てられ、次のようなコメントが付けられたとする。

「この男の子は5歳児としては大柄です。自分が何がしたいのか良く分かっています。バスケットボールが大好きです。おもちゃの車やトラックで遊ぶのも好きです。毎晩寝る前のお祈りも欠かしません。」

あるいはまた、

「この女の子は、担任の先生によれば、明るく、行儀の良い少女です。歌ったり、踊ったりするのが大好きです。」

しかしながら、このふたりの5歳児について真に注意を払うべき対象は、次のような履歴の方である。

「この男児は、3人の兄弟姉妹ともども実母に育児放棄されて後、月齢5ヶ月で最初の里親の養育を受けた。以後、5軒の里親宅と1軒の親戚宅に措置された。その後、兄弟姉妹が生家に戻ったにも関わらず、この子は戻れなかった。実母が、彼がなつかないという理由で受け入れを渋ったからである。」

あるいはまた、「受け入れ家庭は、この子のADHD (注意欠陥多動性障害) および愛着障害に対処できる能力が必要。」

さらに別の例として、

「この女兒は、人の関心を引きたがる。また、常に監督している必要がある。現在、セラピストが、過去の虐待の影響を治療中。大人からの指導や育成を受け入れる事も学習中。巧みに犠牲者を装い、自分ののでかした事でも人を責める習癖がある。」

愛着とは？

実父母であれ養父母であれ、親であれば子供の愛着の成立プロセスをできるだけ詳しく知っておかねばならない。驚くべきことに、子供達の愛着成立過程の重要性や、その生涯にわたる影響について理解している親は非常に少ない。優れた参考文献として、愛着の概念と重要性についての基本的な概要を述べたジェロミー・ホームズ (Jeromy Holmes) の1993年の著作「ジョン・ボウルビーと愛着理論 (John Bowlby & Attachment Theory)」および当センターによる1995年発行の「子供達にルーツを与えよ。しかる後、飛び立たせよ (Give Them Roots, Then Let Them Fly)」などがある。

殆どの動物にとって愛着とは、生殖、養育、庇護、給餌、生存環境の学習等と同じく、種の存続のために必要な、基本的かつ生物学的過程である。愛着は、血圧や体温を制御する生理的調節機能と同様、えてして見過ごされがちな機能である。愛着のプロセスは、子供の人生の最初の数ヶ月からその形成が始まる。親子の絆を発達させる過程で、当の子供にとっての愛着プロセスとは、養育者 (母親とは限らない) の養育プロセスとの相互影響作用である。より簡潔に言えば、それは幼児に安全と安心感を確信させ、接触、見つめあい、微笑み、身振り、あるいは食物など、幼児の人間らしい欲求を満たすためのプロセスである。

「乳児や幼児はどんな事があっても容易に回復して、その影響が後にひくような事はない」と信じている人がいまだに数多くいる。この誤謬が元で、これまで乳幼児に対する多くの有害な考えや行動が生じてきた。

乳児が生後一年の間にどれくらいその欲求を満たせたかという要素は、身体のみならず精神的にもその後の発育に多大の影響を及ぼすのである。乳幼児の欲求を満たしてやる経過こそ、その子供が養育者に対する感情 怒りか幸福か、絶望・無力感かそれとも期待か、満足か不満足か、信頼か不信か----を決定するのである。子供は自分の生きる世界が安全な場所か否かを理解し始める。その事について、子供は生後1年頃には50%は理解し、2年も立つと、その後の全人生で知る事の75%は学んでしまうと考えられている。その学ぶ内容には、どうやって人との関係を持つか、いかにして世界に適合するか、あるいは人生において外部・内部から及ぼされる影響をどう自制するか、というような事が含まれる。

それが安心から来るものか不安から来るものかに関わらず、子供達は愛着行動を発展させていく。不安から来る愛着行動は、その行動パターンによって、アンビバレンツ【訳注：両面価値。二律背信的心的反応】回避【訳注：不快な刺激をうけまいとする逃避的行動】、あるいは失見当・混乱と判断されてきた。このような愛着行動のパターンは、子供の育成環境でどのような事が起こったかによって大きく違ってくる。それでも子供達はどんなレベルにおいても、例えトラウマのある状態でも、愛着を行う能力を持っている。精神外傷を生じさせた出来事・状況は子供の安心感の土台を損ない、また逆に、親による治療的教育は安心感の土台の損傷を修復させる事ができる。そのような愛着行動が連続機能とみなされる一方、不確実な愛着を身に付けた子供は、その多くが自分自身あるいは他者に対して極めて破壊的な行動をとることは明らかである。適切な知識がなくては、最初、このような行動は必ずしも明白には分からない。

あなたは、特殊な欲求を抱えた子供を養子にする事はできるが、それを決意する前に、あるいは将来に対処するために、適切かつ十分な情報を得なければならない。

ファンタジーボンド (空想のきずな)

例えば、あまり表面に出てこない問題の中には、「ファンタジーボンド」と呼ばれるものがある。この問題は、実父母についてはっきりとした記憶を持たない子供に生じる。このような子供達は、実父母が子供の居場所を知ったら必ず迎えに来てくれるという類の希望、夢、空想を持ち続け、また実父母を探し出す熱望を抱き続ける。

その結果、子供達は、自分達の「本当のママ」、自分たちを生んでくれたママのために、愛を残しておかなければならない、と確信するに至る。このような傾向が、子供達の愛情表出の無さとなり、...それが、養子縁組あるいは里親への措置を次々と不調にさせる契機となり、不調となって見捨てられた思いが憤激とやり切れなさになり、またそれが、自分達を本当に愛してくれるのは実父母だけだ、という信念を再確認させる事となる。

実父母の深刻な虐待や無視を記憶している子供であっても、後にはしばしばこの実体験を否定し、実父母との密接につながっているという感情を空想で創り出してしまう事がある...、その結果子供達は、虐待、無視、放置といった実体験を、何か自分達が悪いことをしたのが原因で、自分達が悪かったためだと捉え、心

の奥深くにしまい込んでしまう。

もし実父母の元に戻れたら、その時自分達が良い子にしていたら、きっと自分への愛情が取り戻せる、と子供達は夢想する。

養子縁組を成功させるために

あなたが養子縁組を成功させるためには、全ての必要な情報を知らされ、かつ、可能な限りその対処を準備する必要がある。養子縁組業務に携わる人々が万事心得ている、などと思い込んではいならない。関連する書物は、読める限り読むこと。疑問があれば全て問い質すこと。利用できる情報源は、悉く利用すること。

なぜなら、あなたの決断はあなただけでなく、あなたが家庭に入れようとしている子供も巻き込む重大なものだからである。

下記の質問やチェックリストは、あなたが関係者に、あるいはあなた自身に問いかけるべき問いである。それは全てではない。ただの始まりに過ぎない。

【あなた自身への問いかけ】

- ・愛着のプロセスや親子の結びつきについて、完全に理解しているか？
- ・不安定な愛着や破綻した愛着を体験してきた子供の重大さを理解しているか？
- ・子育てに必要な親としての心構えを十分に調べたか？
- ・養子にしようとしている子供がどんな子供であるか知っているか？
- ・子供について適切な質問ができるだけの十分な知識があるか？
- ・養子縁組をする前に、縁組以降何か問題があった場合に頼りとする機関とつながりを持っているか？
- ・将来起こり得る問題に備えて、縁組前・縁組後のカウンセリングに出席する忍耐があるか？
- ・もし養子に心理治療や在宅治療が必要となった場合、その費用をまかなえる財源があるか？

【斡旋機関やケースワーカーに問うべき質問】

- ・その斡旋機関は、縁組の完了する前に、積極的に全ての子供の記録を公開する予定か？
- ・対象児童がこれまで措置されていた里親や養親宅の養育環境はどうだったか？
- ・対象児童の履歴はどうか？
- ・対象児童は、どんな虐待（物理的、感情的、性的）を受けてきたか？
- ・対象児童は、どれくらいの期間、里親の養育を受けてきたか？どんな養育か？
- ・対象児童は、生まれてから何度措置先を変更させられてきたか？
- ・対象児童が持つ顕在的、潜在的問題は何か？
- ・もし縁組後に問題が生じた場合、どのような調停機関が利用可能か？

縁組前に養親が知っておくべき事については、Keckand Kupecky著の「傷ついた子供との養子縁組 (Adopting The Hurt Child)」、特に第六章「夢と現実 (Dreamsand Realities)」に詳細が書かれている。

【愛着障害の徴候チェックリスト：ゼロ歳～1歳】

- ・生後6ヶ月たっても、主要な養育者の顔を認識していないような様子は？
- ・発声することがめったにない。あるいは、延々と発声し続ける。
- ・ハイハイ、高足ハイハイ、お座り等のそれぞれの段階で遅れがないか？
- ・抱かれたり触られたりすると抵抗したり、嫌がったりしないか？硬直したり、身を硬くしたりする。
- ・過剰なほど騒ぎ立てたり、苛つく。
- ・無力、言いなり、引きこもる。
- ・筋肉に張りがない。筋肉がだらっと弛緩している。

【愛着障害の徴候チェックリスト：1歳～5歳】

5歳までに、家族間のマニピュレーション（人心操作）、ごまかし、家具などの破壊、屋内での火遊び、ペットへの暴行、頻繁な虚言などを示す可能性がある。

- ・見知らぬ人にまで、無差別の親愛表現を行う。
- ・自分の欲求通りに相手を支配する形で、相手の好意を要求する。
- ・ひどくしつこい、または、いつもメソメソしている
- ・物事に固執し、いつも不機嫌で、時には自制心を失うまでに怒りがエスカレートする。
- ・不快感の域値が高い。暑さ寒さに鈍感である。顕在的な苦痛を感じることなく、出血するまで傷口やか

- さぶたを突つつく。
- ・抱かれるのを嫌がる。
- ・他の人と一緒にないと、何かまともな事に没頭することができない。
- ・自分が望まぬ限り、主要な養育者と少しでも離れるのを嫌がる。
- ・言語能力の遅れ。またはエンジンを体に付けて動き回るような、唐突な、ギクシャクした動作（モーター・コーディネーション症状）。しょっちゅうケガをする。
- ・顕性の活動亢進(過剰なほど動き回る)

【愛着障害の症状チェックリスト：5歳～14歳】

- ・表面的には愛想良く、チャーミング。人に自分の望む事をさせるために、自分のキュートさを利用する。親と目を合わせるのを避ける。人と話していても、目を合わさない。
- ・見知らぬ他人への見境のない親愛。
- ・親には親愛を示さない(抱かせない)。自分がいつ、どのようにされるのか知っていて、自分の思うようでない、抱こうとする親の親愛を拒絶し、押しのける。
- ・自分自身、他人、物に対して破壊的。ケガをしやすい。わざと人を傷つけたり、物を壊したりする事を楽しんでいるように見える。
- ・動物に対して冷酷(しょっちゅう、いじめたり、暴行したり、拷問したり、儀式的なやり方で殺したりする。)
- ・盗癖：家の中で、確実にばれる事が分かっているやり方で、両親、兄弟から盗む。
- ・虚言癖：これという理由もなく、明白な嘘をつく。
- ・衝動を押さえる事ができない。(しばしば活動亢進の行動をとる)：非常に反抗的であり、怒りっぽい。生活のあらゆる出来事を支配したが。他の家族に対して、傲慢な態度をとる傾向がある。何かを頼まれたら、長々と口ごたえする。
- ・学業の遅れ：実際の能力よりも低い点数をとる。
- ・原因と結果を考えることができない：自分の何かの行動で、人が怒ったりすると驚く。
- ・良心の呵責の欠如：他人を傷つけたり、物を壊したりすることに無頓着。
- ・食物を貯め込む、あるいはがつつと食べる：異食症。(紙、接着剤、塗料、メリケン粉、ゴミ、等)。
- ・対等の人間関係ができない。：友達ができそうになっても、自分の傲慢な振るまいによって、1週間も続かない。
- ・火、あるいは血に魅せられる。：火、血、あるいは病的な行為に魅せられる。
- ・執拗な問いかけ、あるいは絶え間のないおしゃべり。：無意味な質問を繰り返し繰り返し聞いたり、絶え間なくしゃべり続ける。
- ・極度な要求過剰あるいはしつこさ：人の注意を引こうとして、頼むと言うより、しつこく要求する。何かが欲しい時は、しつこいか、あるいは親愛を示す。
- ・異常な話し方：その他の、より深刻な症状と平行して現れ、それが更に普通でない話し方を昂進させる。
- ・性的アクトアウト(抑圧感情の無意識の表出)：仲間あるいは大人への性的挑発、あるいは人前での自慰行為、などの可能性。

養子縁組を成功させる要素

(出典：McKelveyand Stevens「養子縁組の危機」、1993年刊行)

- ・年齢。(年齢の高い子供達は、養家に馴染むまでに長く、辛い時間がかかる)
- ・里親への措置変更の回数。(あまり多いと、子供達にトラウマを与える)
- ・子供が福祉システムに組み込まれた段階で、直ちに終生プランを立てること。
- ・家族の強さ、技量を評価でき、移転を容易にする措置業務。
- ・養親と養子の適切な相性の調整
- ・子供の履歴の全面的情報開示、また不調のリスクについての現実的な評価
- ・問題が危機と化す前に、措置後の調査を行う事。
- ・特殊な欲求を抱えた子供の養子縁組においては、養親への研修とサポートを、子供が思春期を過ぎるまで継続して行う。